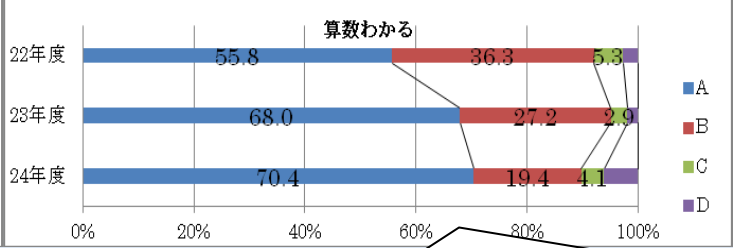
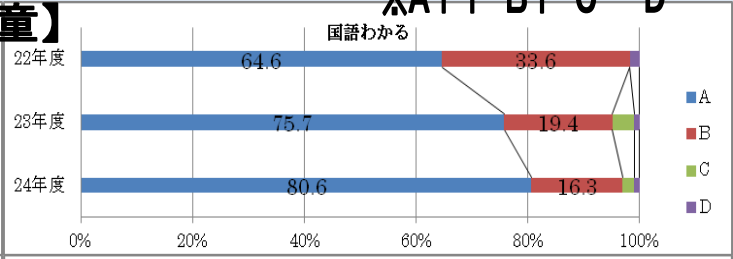
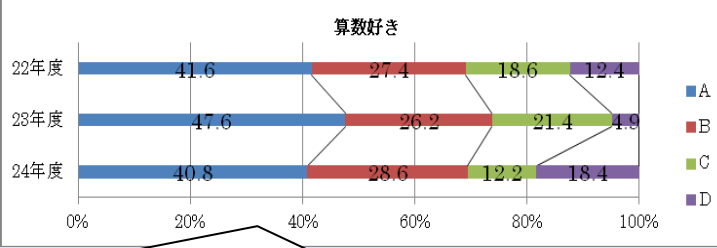
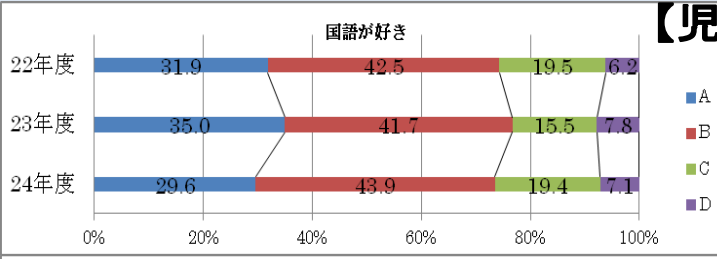


1 授業に関する児童・保護者の意識 ～「授業は分かるけど・・・」～

※A++ B+ C- D--

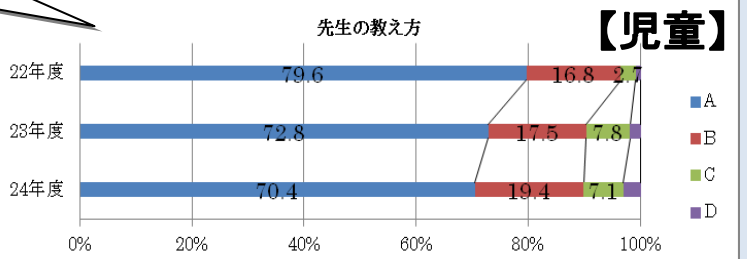
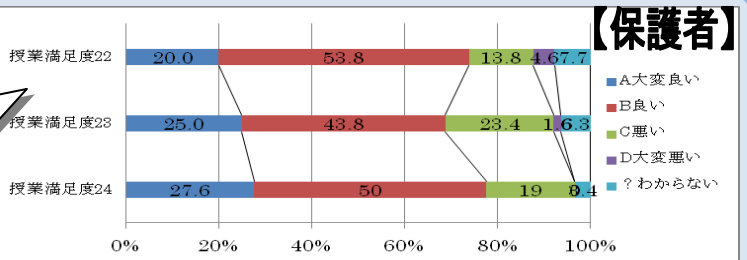


◆国語・算数が好きかという問に対して、約70%の児童が好意的評価をしている。これを3年間の経年変化で見ると、年度によって凸凹はあるが、**ほぼ横ばい**の状態である。

◆国語・算数がわかるかという問に対して、90%を超える児童がプラスの評価をしている。また、年々、その率は上昇しており、「**わかる**」という観点では授業は改善されてきている。

◆保護者アンケートの「子ども達は、授業がわかる・できると言っているか」という問に対して約80%の保護者がプラスの評価をしている。経年変化でも年々プラスに評価する保護者が増えている。特に「大変良い」と答える保護者(27.6%)が増えている。

◆児童アンケート「先生は、いつも明るく元気に授業していますか」という問に対して約90%の児童はプラス評価をしている。しかしながら、**経年変化で見ると下降**してきている。

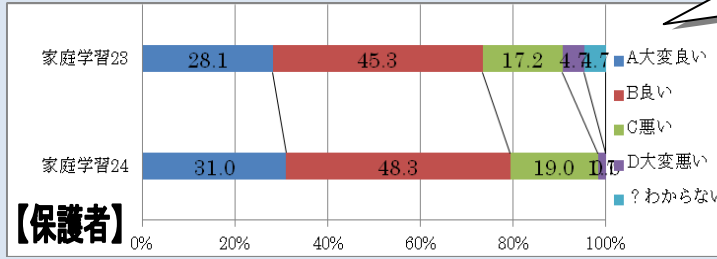
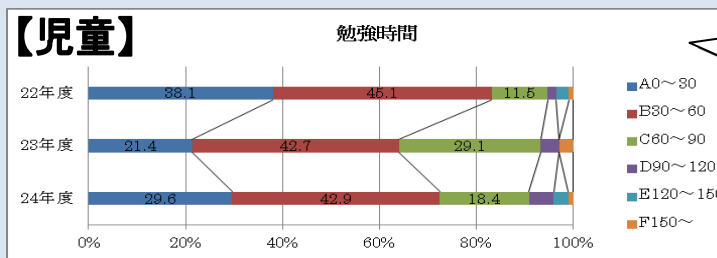


**【考察】**  
◆この3年間、学力向上に取り組んできているが、その負の部分が出てきているのかもしれない。教師の児童への接し方が暗くなっている可能性がある。明るく児童に接して教えることと学力向上は二律背反ではない。今後、教え方の研修が必要であろう。

◆家庭における1日1時間以上勉強する児童の割合は、22年度から23年度にかけて大幅に改善されたが、今年度若干下降した。全国的にみれば本校児童の家庭学習時間は、まだまだ**改善する余地**がある。

◆保護者アンケート「子ども達は、進んで家庭学習に取り組んでいるのか」という問に対して、今年度は約**80%の保護者がプラス**の評価をした。また、昨年度と比較しても**上昇傾向**を示した。

2 家庭学習に関する児童・保護者の意識 ～家庭学習に進んで取り組む子が増えています～



**【考察】**  
◆児童の答えた家庭学習時間と保護者の答えた結果からすると、量的な時間というより家庭学習の質が変化してきているのではないかと考えられる。進んで家庭学習に取り組む子が増えているのではないかと。今後は「量」「質」の向上に努める必要がある。